

## 関東支部報告

### 令和2年度共晶会関東支部活動報告

令和2年度共晶会関東支部総会（2020年11月15日（日曜日）11:00～14:30）は、新型コロナウイルス禍のために、初めてのオンライン開催となりました。今夏の幹事会からオンラインで打合せを行ない、事務局の黒岩和典氏の多大な尽力のお陰でオンライン開催に漕ぎ着けることができました。

恒例の名古屋大学からの講師招聘は、稗田純子准教授にオンラインで参加していただきました。稗田先生は、関東支部総会初の平成年代の卒業で、かつ初の女性講師となりました。稗田先生には期待に違わぬフレッシュな講演をしていただき、参加者は稗田先生を含む16名が（いつもの学士会館（東京・神保町）・・・ではなく）WEB上で楽しいひとときを過ごしました。

稗田先生は2004年（H16）に工学部物理工学科材料工学コースを卒業され、2009年に大学院工学研究科マテリアル理工学専攻博士課程後期課程を修了され、博士（工学）を取得されました。その間、高井治先生や齋藤永宏先生の薫陶を受けられたとのこと。その後は名古屋大学の他、東北大学金属材料研究所や東京工業大学大学院工学研究科でもご活躍になり、2016年4月に名古屋大学工学部マテリアル工学科および大学院工学研究科化学システム工学専攻准教授に着任されて、現在齋藤・稗田・神本・上野研究室の一翼を担っておられます。

総会では、稗田先生の多岐に亘る知見を基に、興味深い講演をしていただきました。講演の前半は、毎年恒例となっている名古屋大学工学部の金属系学科（既にこれも死語かもしれませんが）の現状についてご紹介いただきました。母校を離れて長年が経ち、学会活動やリクルート活動などからも遠ざかっている身としては、この情報は現状を知る貴重な機会です。今は材料工学科と化学工学科が統合してマテリアル工学科になり、今年初めてマテリアル工学科で入学した学生が4年生として研究室に配属されたそうです。今や「金属工学科」や「鉄鋼工学科」は跡形もなく、どのような変遷を経てマテリアル工学科になったのかと思うと隔世の感があります。学科名だけではなく、講座の内容でも鉄の研究をしている講座は数える程で寂しい思いもありますが、これも時代の流れでしょうか。

講演の中で、今年のコロナ渦での授業等への対応が紹介されました。春学期はオンライン、秋学期からは対面+オンライン授業、学科の会議もZoomでのオンライン会議になっているそうです。マスコミでも報道されていますが、当事者の先生からお話を伺うとご苦労がよく分かります。学生の方もとんだ災難で、「2年生はオンラインでも良い（通学時間が不要）」と言うけど、1年生は早く大学に来たがっている」という話が印象的でした。学生にとって大学の機能は、単に授業を受けるための機関ではなく、人間形成の場であることを改めて思います。これから暫くは感染拡大防止との兼ね合いで難しい舵取りになりそうですが、何とか乗り切って欲しいと思います。

その他の話題として、マテリアル工学科新同窓会が発足し、現4年生たちが新名称を検討中とのことですので、共晶会関東支部としてもその動向を注視していきたいと思えます。

講演の後半では、稗田先生の豊富な研究業績が紹介されました。その研究業績は多岐に亘り、(1)プラズマプロセスによる生体用Ti合金の開発、(2)プラズマプロセスによる生体用アモルファス炭素膜の開発、(3)液中プラズマによる高分子重合、(4)難氷雪接着表面の開発、についてご説明いただきました。浅学の身には十分な理解ができたか心許ないのですが、稗田先生の研究に対する熱意はひしひしと伝わって来ました。

ここでは紙面の都合上その全貌はとて記述できませんが、その一端をご紹介します。例えば、生体用材料（事故や疾病等により欠損した身体機能を代替したり治療に使用したりするために医療用に使用される材料）としてのTi合金の開発では、①無毒性・非アレルギー性（人体に対して無害）、②生体組織適合性（人体を構成する組織となじみが良い）、③高力学的特性（長年体内に埋め込んでも安心）、④耐食性（長年体内に埋め込んでも安全）が求められる高度な材料です（長年、鉄の大量生産に携わって来た身には想像を絶する世界です）。そのような高機能材料を、プラズマプロセスを用いてTi-Mg合金等で作成する過程を説明していただきました。

講演の後も、参加者からの質疑応答や更には先輩からのサジェスションもあり、有意義な時間になったと思えます。

稗田先生の講演の後は歓談に移り、各自が手元に用意した食事を取りながら、参加者の近況報告などが行なわれました。WEB上での近況報告ということで、いつもとちょっと勝手は違いましたが、ちょうど所定の時間内に皆さんの近況を伺うことができました。参加者の中には会社をリタイアして第2の人生に踏み出されている方も多く、そろそろリーチが掛かっている者として参考になることも多々ありました。

稗田先生の東京工業大学時代の恩師である大竹先生も参加していただき、稗田先生とは久しぶりの再会だったようで、また稗田先生が東工大で活躍されていたときの様子も紹介していただいて会が盛り上がりしました。

今回はH14年Mの方が最若手で参加してくれましたが、まだまだ現役世代の方々の参加が少ないのが実情です。この小文を目にされた関東地区（に限らずどなたでも歓迎です）在住の方は、関東支部総会への参加を是非ご検討ください。例年の案内が届いていない方は、下記事務局までご連絡ください。

次回（来年）の総会は、コロナの状況が見通せず未定です。例年ですと11月の第3日曜日に開催していますが、①リアル開催、②オンライン開催、③（技術的に可能であれば）ハイブリッド開催、のどれにするか、今後幹事会で検討していきます。何かご要望がありましたら、下記事務局までお知らせください。

また、こうすれば参加できる（時間帯・場所・会費等何でも）というようなご意見がありましたら、同様に下記事務局にお寄せください。次回すぐに反映させるのは難しいかもしれませんが、できるだけの対応を幹事会で検討していきたいと思えます。

最後に、参加者の方々、また開催に協力いただいた共晶会本部の方々に、この場を借りてお礼を申し上げます。

（共晶会関東支部長 井上 茂（S56/58M 坂尾研））

<事務局連絡先>

黒岩和典（S52 戸澤研） [kuroiwa779618@gmail.com](mailto:kuroiwa779618@gmail.com)

以上

関西支部報告

## 令和2年度 共晶会関西支部活動報告

関西支部の総会・懇親会の開催について、新型コロナウイルスが鎮静化していない状況を鑑みて本年度（2020年度）も中止とさせて頂くこととしました。2年連続で中止となり、非常に残念ではありますが、安心して開催できる時点で開催とさせて頂きます。

現時点では次回開催は1年後の2022年3月12日（土）を予定しています。

日程が決定次第、改めてご連絡をさせて頂きます。

一刻も早い収束と皆様のご健康を祈念申し上げます。

また、今後とも皆様の温かいご支援のほどよろしくお願い致します。

### 【2022年1月追記】

2021年度の共晶会関西支部、総会及び懇親会を例年であれば2022年3月に開催する予定でございますが、変異株等によりコロナ禍が完全に鎮静化していない状況を鑑み、本年度についても開催を中止させて頂くことといたしました。

安心して開催できる状況になりましたら、改めてご案内させていただきます。

何卒、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

一刻も早い終息と皆様のご健康を祈念申し上げます。

今後との共晶会活動へのご支援の程よろしくお願い致します。